東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 28 号: 27 (2023)
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* Vol. 28: 27 (2023)

〈特集「受動表現」〉

ラモ語における受動表現
Passive Expression in Lamo

[1]鈴木 博之, [2]タシ・ニマ
Hiroyuki Suzuki, Tashi Nyima

[1]京都大学国際高等教育院
ILAS, Kyoto University
[2]オスロ平和研究所
Peace Research Institute Oslo

要旨：本稿では，特集「受動表現」(『語学研究所論集』第 14 号, 2009, 東京外国語大学）における調査票の 10 項目について，ラモ語東壩郷方言のデータを記述し，その分析を行う．

Abstract: This report describes and analyses the data of the lDongpa dialect of Lamo concerning the ten phrases for the special volume of the *Journal of the Institute of Language Research* 14, which focuses on the cross-linguistic study of 'passive expressions'.

DOI: https://doi.org/10.15026/0002000393
キーワード：受身, 語順, アラインメント
Keywords: passive, word order, alignment

1. はじめに

ラモ語は，Tashi Nyima and Suzuki (2019)で初めてまとまって報告された，チベット自治区チャムド市左貢（ゾゴン）県西部で話されるチベット・ビルマ諸語の１つである．ラモ語は大きく東壩郷で話される方言（狭義の「ラモ語」）と中林卡郷で話される方言（「ラメ語」と呼ばれる）に分かれる（Suzuki et al. 2021）．本稿で記述するのは，同県東壩郷方言（以下，単に「ラモ語」とする）で，第２著者の母語である．これまでのラモ語の記述には，Suzuki et al. (2018)や Suzuki and Tashi Nyima (2021)がある．

本稿での記述は，両著者が 2023 年に SNS を介したやり取りに基づく．すでに比較的まとまった語彙集と文例集（未公刊）があるため，語形式や文法形式の多くを参照できる状態にある．SNS では主に文法判断を議論した．調査票はすでに用意のあった漢語版を用いた．

2. データ

以下，「受動表現」(『語学研究所論集』第 14 号）に関する例文に対応するラモ語のデータを提示する．各例文について，見出しを調査票の例文形式とし，続いて(A)東壩方言の音韻表記, (B)英語による語釈, (C)例文に対する日本語訳の順で記す．必要な個所には，(C)に続いて解説を添える．音韻表記は Tashi Nyima and Suzuki (2019)と Suzuki et al. (2024)で定義した方法を用いる．

なお，ラモ語には受動態を示す形態統語的手段がない．調査票にある受け身の表現は語順の違いで現れると判断できる．このため，(C)は日本語として不自然であっても，(A)が表す形式にできるだけ忠実に対応するように訳す．

本稿の著作権は著者が保持し，クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します．
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

(1) A は B に叩かれた. 【直接受身】

ˉʰʈa ɕi	´ʱɖo ma-ji	ˉnɔ-ʈɔ-tə-tɕʰɯ
PSN	PSN-ERG	DIR-hit-arrive-AOR.STM

「タシはドマが叩いた」

調査票にある受け身の形式に相当する表現は，被動者が行為者に先行して現れることによって表される．筆者は初頭の項を主題として考える立場をとる．このため，「受け身」は被動者が主題になる表現と言える．ただし，以下(10-2, 10-3)に見るように，被動者が行為者に先行して現れることと受け身が対応するとは限らない.

(2) A は B に足を踏まれた.【持ち主の受身，体の部分】

ˉʰʈa ɕi-ɦa	ˉsə ʱdi	´ʱɖo ma-ji	´nə-tə-tə-tɕʰɯ
PSN-GEN	foot	PSN-ERG	DIR-step-arrive-AOR.STM

「タシの足をドマが踏んだ」

調査票では，「タシ」と「足」は属格で結ばれていないが，ラモ語では属格でつなぎ，１つの名詞句とすることが自然である．また，無意識的に踏んでしまう状況と意図して踏みつける状況は，表現しわけることができない.

(3) A は B に財布を盗まれた.【持ち主の受身，持ち物】

ˉʰʈa ɕi-ɦa	ˉʱŋɯ' kʰu	´ʱɖo ma-ji	ˉʰkɯ tʰi-tə-tɕʰɯ
PSN-GEN	wallet	PSN-ERG	steal-arrive-AOR.STM

「タシの財布はドマが盗んでいった」

(3)も(2)と同様，調査票では「タシ」と「財布」は属格で結ばれていないが，ラモ語では属格を用いる.

(4) 昨日の夜，私は赤ん坊に泣かれた．それでちっとも眠れなかった.【自動詞からの間接受身】

ˉji si	´ma nɔ	ˉno no	´qɚ-pʰe	´ŋa	ˉʱne ´ma-jḭ
yesterday	evening	child	cry-CONJ	1SG	fall asleep NEG-STEM

「昨日の夜，赤ん坊が泣いて，私は本当に眠りに落ちることがなかった」

(5) 大きいビルが（A によって）建てられた.【モノ主語受身，一回的】

ˉʰʈa ɕi-ji	ˉtɕi	ˉʰsɛ' pɛ	ˉⁿʈʰo tsɑ	´kə kə-də	´tə-za-tɕʰɯ
PSN-ERG	house	new	high	big-NDEF	DIR-make-AOR.STM

「タシが大きく高い新しい家を建てた」

調査票では，(5)の動詞が「新しく建てた」という意味になっているが，「新しい建物」とするほうがラモ語らしいという．また，「ビル」に相当する表現を「大きく高い家」としたが，ビルがラモ語域にはない新概念であるため，言い換えた．なお，(5)は能動文の構造となり，モノ主語受身は自然な表現として認められない．

(6) カナダではフランス語が話されている．【モノ主語受身，恒常的．動作主が問題にならない場合】

˩kʰa'nada(e)-lə	ˊmə ni	*˩frãsə*(e) ˩ʰkə	ˊʰɕi-tɕʰɨ
Canada-LOC	person	French language	speak-STA.STM

「カナダでは，人はフランス語を話している」

(6)の「カナダ」と「フランス」にあたる語形式は，第２著者の現在の言語環境を踏まえ，英語をベースとした発音を採用している．ラモ語域では漢語に基づく形式（加拿大 *jianada*；法语 *fayu*）が現れるだろう．(6)も(5)と同様，能動文の構造となり，モノ主語受身は自然な表現として認められない．

(7) 財布が（A に）盗まれた．【モノ主語受身，モノ主語の背後に被影響者が想定される】

˩ʱŋɨ' kʰu	˩ʰʈa ɕi-ji	˩ʰkɯ tʰi-tə-tɕʰɨ
wallet	PSN-ERG	steal-arrive-AOR.STM

「財布はタシが盗んでいった」

(8) 壁に絵が掛けられている．【モノ主語受身，結果状態の叙述】

ˊʱdɔ̃ kʰu-lə	ˊrə mu ɲi	˩ri ti-xi-də	ˊʱdo-tɕʰɨ-sə
wall-LOC	picgture	draw-NML-NDEF	hang-STA.STM-SNINFR

「壁に描かれた絵が掛かっている」

(8)は漢語の調査票では受け身の形式をとらない．ラモ語においても自動詞によって表される．最後に推測のマーカーがつくのは，壁そのものに絵が描かれている場合と見分けきれていない状況を表す．

(9) A は B に／から愛されている．【感情述語の受身，特に動作主のマーカーに注目】

ˊʱɖo ma	˩ʰʈa ɕi-lə	ˊʱgɛ-tɕʰɨ
PSN	PSN-DAT	love-STA.STM

「ドマはタシを愛している」

(9)の「愛する」という動詞は感情動詞であり，感情を抱く主体は絶対格で，感情の向く対象は与格で標示される．これはチベット系諸言語の構造（Tournadre and Suzuki 2023）と並行的である．

(10-1) A は B に／から「…」と言われた.【伝達動詞の受身，特に動作主のマーカーに注目】

ˊⁿɖo ma-ji	¯ʰʈa ɕi-lə	ˊtʰje-pʰe	(...)
PSN-ERG	PSN-DAT	tell-PFT.STM	(...)

「ドマがタシに言ったのは（「…」）」

(10-1)は直接話法による日常的な表現である.「言う」という動詞の格支配に基づいて，発話者には能格標識を，聞き手には与格標識を付加し,「言う」に相当する動詞は完了の接尾辞（接続詞の役割を兼ねるもの）を取って，発言内容が文の形式で現れる.

(10-2) A さんは B さんに呼ばれて，今 B さんの部屋に行っています.

¯ʰʈa ɕi	ˊⁿɖo ma-ji	¯tʰu-ɦo	¯tʰɛ-lɛ-pʰe
PSN	PSN-ERG	call-CONJ	DIR-come-PFT
ˊʔa kʰə	ˊⁿɖo ma-ɦa	¯tɕi-na	ˊkʰo' tɕʰʉ
now	PSN-GEN	room-INE	EXST.STM

「タシはドマが呼んでそちらへ行き，今ドマの部屋にいる」

(10-2)の文は，第１文の主題を被動者の「タシ」とすることで，第２文の単独項（主語）を兼ねる構造になっている．いずれも絶対格であり，統語的にも無理のない構造を示している.

(10-3) B さんが A さんを呼んで，A さんは今 B さんの部屋に行っています.

ˊⁿɖo ma-ji	¯ʰʈa ɕi	¯tʰu	¯tʰɛ-lɛ	ˊtʰo-pu-tə-tɕʰʉ
PSN-ERG	PSN	call	DIR-come	DIR-go-arrive-AOR.STM
ˊʔa kʰə	¯ʰʈa ɕi	ˊⁿɖo ma-ɦa	¯tɕi-na	ˊkʰo' tɕʰʉ
now	PSN	PSN-GEN	room-INE	EXST.STM

「ドマがタシを呼んで（タシが）やってきた．今タシはドマの部屋にいる」

(10-3)の文は，第１文に３つの動詞があるが,「呼ぶ」は行為者に能格をとる２項動詞で,「ドマ」に能格標識がつく．続く２つの動詞は１項動詞で，単独項は絶対格のみをとる．このため，統語的にはこれらの行為者は「タシ」となる．第２文も単独項は絶対格で現れるため,「タシ」を主語とする読みになる.

略号一覧

-	形態素境界
1	1人称
AOR	アオリスト
CONJ	接続詞
DAT	与格
DIR	方向接辞

(e)	英語に基づく音形式の挿入
ERG	能格
EXST	存在動詞
GEN	属格
INE	内格
LOC	位格
NDEF	不定標識
NEG	否定
NML	名詞化標識
PFT	完了
PSN	人名
SG	単数
SNINFR	感知推測
STA	状態
STEM	複音節動詞の語幹
STM	陳述

参考文献

Suzuki, Hiroyuki, Sonam Wangmo, and Tsering Samdrup. 2021. Lamei, another dialect of Lamo (mDzogong, TAR): Vocabulary and sentence structure. In Yasuhiko Nagano & Takumi Ikeda (eds) *Grammatical phenomena of Sino-Tibetan languages 4: Link languages and archetypes in Tibeto-Burman*, 25–69. Kyoto: Institute for Research in Humanities, Kyoto University. http://hdl.handle.net/2433/263977

Suzuki, Hiroyuki and Tashi Nyima. 2021. Evidential system of copulative and existential verbs in Lamo. In Yasuhiko Nagano & Takumi Ikeda (eds) *Grammatical phenomena of Sino-Tibetan languages 4: Link languages and archetypes in Tibeto-Burman*, 259–287. Kyoto: Institute for Research in Humanities, Kyoto University. http://hdl.handle.net/2433/263981

Suzuki, Hiroyuki, Tashi Nyima, Sonam Wangmo, and Tsering Samdrup. 2024. Suprasegmental features of Lamo and its sister languages: With reference to Kansai Japanese. In Masaki Nohara and Takumi Ikeda (ed) *Grammatical phenomena of Sino-Tibetan languages 6: Typology and historical change*, in press. Kyoto: Institute for Research in Humanities, Kyoto University.

Suzuki, Hiroyuki, Tsering Samdrup, and Sonam Wangmo. 2018. Contrastive word list of three non-Tibetic languages of Chamdo——Lamo, Larong sMar, and Drag-yab sMar——. *Kyoto University Linguistic Research* 37: 79–104. https://doi.org/10.14989/240980

Tashi Nyima and Hiroyuki Suzuki. 2019. Newly recognised languages in Chamdo: Geography, culture, history, and language. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 42(1): 38–82. https://doi.org/10.1075/ltba.18004.nyi

Tournadre, Nicolas and Hiroyuki Suzuki. 2023. *The Tibetic languages: An introduction to the family of languages derived from Old Tibetan*. Villejuif: LACITO Publications. https://doi.org/10.5281/zenodo.10026628

執筆者連絡先：minibutasan [at] gmail.com, tashi_nyima2005 [at] yahoo.no

原稿受理日：2023 年 12 月 8 日